

平成 30 年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■自主研究 1	公益目的事業 11
主査名	西田 泰 公益財団法人交通事故総合分析センター特別研究員兼研究第一課長	
研究テーマ	外国人及び余暇活動中の交通事故に関する研究	

研究の目的：

外国人観光客の受け入れ拡大政策により、近年外国人旅行者は急増し、それに伴い外国人旅行者による交通事故も増加している。また、青壮年に比べて余暇時間の多い高齢者は、通行目的が観光等での交通事故に遭う割合が高くなっており、今後、高齢者人口の増加に伴い、高齢者の余暇活動中の交通事故も増加すると考えられる。そこで、交通事故統計データ等を分析し、外国人観光客を含めた余暇活動中の交通事故防止策を検討する。

研究の経過（4月～3月）：

外国人や余暇活動中の交通事故を分析し、以下のような結果を得た。また、今後のデータ分析や安全対策検討のため、観光案内アプリ開発業者から訪日外国人動態分析等について情報収集した。

○ 外国人・高齢者の通行目的別交通事故： ①訪日外国人は観光目的等での死者、死傷者の割合が高い。②観光目的の訪日外国人は日本人に比べて、自動車乗車中や中年層の死者割合が高く、自転車乗用中、歩行中や中年層の死傷者割合が高い。③高齢者の余暇活動中での自動車利用は増加しているが、自動車運転中関与者の通行目的の構成をみると、余暇活動の割合は増加していない。

○ 余暇活動中の外国人による交通事故： ①観光目的の交通事故をみると、訪日外国人は日本人に比べて、右折時や出会い頭事故、及び②交差点安全進行義務違反、指定場所一時不停止による事故の割合が高い。

○ レンタカー事故の分析： ①訪日外国人の観光目的でのレンタカー事故の大半は北海道と沖縄で発生し、これら地域の訪日外国人の事故の特徴は、県外からの日本人観光客の特徴に類似、②日本人のレンタカーやマイカー事故の特徴には、県内居住者と県外居住者の違いや、県による事故タイプの分布に差がみられた。

研究の成果（自己評価含む）：

観光目的での外国人と日本人の交通事故の違いを明らかにすることができたが、観光目的のレンタカー事故分析では、訪日外国人と日本人の対比よりも、環境への習熟度を考慮し県外居住と県内居住に分けること、さらに、同じ日本人でも自動車運転への習熟度という点からレンタカーとマイカーに分けることが、効果的な交通事故対策に結び付くと考えられた。また、観光目的での交通事故の特徴には、観光地となる地域の特性だけでなく、運転者の居住地という地域の特性の影響を示すものもあり、個々の利用者に応じた事故対策の必要性が示された。

観光案内アプリは、単なる案内だけではなく、道路利用者から情報の収集及び個人ベースの事故防止策の提供ツールとして有用であることが確認できた。

今後の課題：

カーナビやスマホ等を活用することで、道路利用者の属性や利用条件に応じたきめ細かな情報提供に基づく事故防止対策の可能性は広がると考えられるが、そのためには、個々人を対象とした事故防止に結び付く、詳細な交通事故分析を行う必要がある。